

いつも大変お世話になり、ありがとうございます。

2月4日、京都市長選挙が執行され、私も応援していた松井こうじさんが当選を果たされました。

松井 孝治	無所属	新人	17万7454票
福山 和人	無所属	新人	16万1203票
村山 祥栄	無所属	新人	7万2613票
二之湯 真士	無所属	新人	5万4430票
高家 悠	諸派	新人	2316票

事前情報ではかなりの苦戦を強いられていましたが、こうした結果になったことを大変うれしく思います。公職選挙法上、御礼を申し上げることはできませんが、私の思うところをお汲み取りいただければ幸いです。

松井さんは、当選が決まった際に「厳しい批判の声もあったが、そういう声にも謙虚に耳を傾けて、京都市を皆様とともに建て直していきたい」と挨拶をされました。京都市民の代表として「かくあるべし」と思いました。

新市長には、その言葉通りに市政を運営されることを大いに期待します。

翻って、国政の方では、「裏金」問題で国民の政治不信がつのっています。

「派閥解消」などと論点が拡散していますが、そもそも「政治資金規正法」には「寄附やパーティーの収入は収支報告書に記載しなさい」と明記されています。不記載は罪となっています。

法律が悪いというよりは、守らない議員に問題があると言えます。

しかしながら、議員各自の遵法精神に期待できないようであります。であれば、「政治資金規正法」において会計責任者だけでなく、議員本人の監督責任を重くする改正が必要です。

こうすれば、今のように事務方だけが処罰をされるのではなく、議員本人にも「公民権停止」等の厳しい処置を受けやすくなります。

恥ずかしいことですが、こうした「抑止効果」を高めるしかありません。